

戸 田 市 教 育 委 員 会 会 議 録		
招 集 期 日	令 和 6 年 4 月 1 8 日 (木)	
場 所	戸 田 市 役 所 教 育 委 員 室	
開 会	4 月 1 8 日 午 前 9 時 3 0 分	
閉 会	4 月 1 8 日 午 前 1 1 時 3 5 分	
教 育 長	戸 ヶ 崎 勤	
教 育 長 ・ 委 員 出 席 状 況	戸 ヶ 崎 勤	出 席
	仙 波 憲 一	出 席
	木 村 雅 文	欠 席
	長 道 修	出 席
	浜 田 美 咲	出 席
説 明 員 (出席者)	川和田教育部長、梶山参事、片境次長	
	金澤教育総務課長、河西学務課長、杉森教育政策室担当課長	
	鎌田生涯学習課長、高屋生涯学習課課長	
書 記	教育総務課総務担当 我妻副主幹	
傍 聴 人	3名	

会 議 の 経 過 及 び 結 果

教 育 長

まず御報告として、先の3月議会で仙波委員の再任が承認されました。任期は令和10年3月28日まで、今年度も引き続き教育長職務代理人となります。後ほど一言御挨拶をお願いいたします。

さて、今年も別れと出会いの季節を経験し、新たな職員構成により教育委員会事務局も順調に動き出しました。令和6年度最初の定例教育委員会となります。今年度もよろしくをお願いいたします。

ところで、入学から就職までを最短距離で駆け抜ける成功者を「勝ち組」と呼ぶことがあります。大学時代に道草を食べてばかりいた我が身からすると、今の大学生活はどうなのか老婆心ながら案じてしまいます。小学校から大学まで、2点の最短距離を導いてしまっているような気がしてなりません。2点を結ぶ線は無数にあるわけで、人生は直線の定規でなく雲形定規の方が馴染むのではないかと思っています。

登下校では、広い道を通らず、垣根沿いの道や、遠回りをして川沿いの道を通り、本来の何倍もの時間をかけて魚や虫などを取って道草を楽しんでいました。まさに、登下校時の道草は知恵の宝庫であり日本の子供たちの特権でした。それが最近では、通学中の交通事故や凶悪犯罪が発生するたびに、GPS 端末などを所持させる動きが広がってきました。「見守り」は「監視」へと変化してきています。幕末以来、日本を訪れた多数の外国人が認めた、世界一子供にやさしい国という神話も、怪しくなって久しいものがあります。

ノーベル物理学賞を受賞した真鍋淑郎博士は、「もし私が道草をしなかったら、僕の人生はかなり変わっていたに違いない」という述懐をされていました。博士は、プログラミングが苦手なノイローゼになるくらい苦勞して、大気の放射や雲の対流などを単純化したモデルの開発に成功しました。そこで「ちょっと道草をしたくなって」二酸化炭素や水蒸気、雲などのデータを変えて、大気の温度にどう反映され

	<p>るかを研究しました。博士の場合は私と違い高級な道草を食べたようですが、研究過程での道草が大発見の重要な要素になったようです。</p> <p>かの寺田寅彦は道草の効用を次のように説いています。「いわゆる頭のいい人は、言わば足の早い旅人のようなものである。人より先に人のまだ行かない所へ行き着くこともできる代わりに、途中の道ばたあるいはちょっとしたわき道にある肝心なものを見落とすおそれがある。……言わば富士のすそ野まで来て、そこから頂上をながめただけで、それで富士の全体をのみ込んで東京へ引き返すという心配がある。富士はやはり登ってみなければわからない。」と。</p> <p>また、「子供の道くさ」という本の著者である立命館大客員教授の水月昭道さんは、「予定調和から外れた出来事を喜び自ら学ぶ。道草は子供が輝く時間なのです。」と述べています。誰一人取り残されない教育とは、子供たち一人一人が様々な場所で、思いがけない発見の喜びを味わえる「道草する自由」を手に入れてもらうことなのかも知れません。</p>
教育長	では、職務代理者に指名をいたしました、仙波委員より一言お願いいたします。
仙波委員	改めまして仙波と申します。教育委員会は楽しくなければいけないと考えておりますので、大いに学ばせていただきたいと思っております。道草も学びの中にあるのだろうといつも思っておりますので、皆さん方と一緒に戸田市の教育の発展のために少しでもお力添えができればいいかなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
教育長	それでは、ただ今から、令和6年第4回戸田市教育委員会定例会を開会いたします。初めに、前回の会議録の承認ですが、事前に会議録の内容を見ていただいております。御異議がないようでしたら承認ということでよろしいでしょうか。
各委員	了承

教 育 長	それでは、会議録に御署名をお願いします。
各 委 員	署名
教 育 長	<p>次に、秘密会となる案件につきましてお諮りいたします。次の案件については、個人情報、公開することにより事務の公正な執行に支障が生じる案件及び人事案件となりますので、秘密会で行うこととしてよろしいかお諮りいたします。</p> <p>報告事項⑩ 戸田市立図書館(中央図書館)における成果連動型民間委託契約(P F S)の導入検討について</p> <p>報告第 2 号 令和 6 年度戸田市就学支援委員会の委嘱について</p>
各 委 員	(異議なし)
教 育 長	それでは「報告事項⑩及び報告第 2 号」は、秘密会とすることに決定いたしました。
教 育 長	<p>では、「教育委員提案」について御報告いたします。</p> <p>仙波委員から御提案のありました「教育委員提案①教職員用端末の一元化について」を事務局より説明願います。</p>
説 明 員	<p>それでは、仙波委員から御提案いただきました教職員用端末の一元化について、教育総務課よりご説明いたします。</p> <p>2 ページをご覧ください。令和 5 年度の夏までは、教職員の端末は、業務の性質に応じ、児童生徒の成績や出欠席等の情報を取扱う「校務系」業務と授業を行う「学習系」業務を二つのネットワークに分離して運用しておりました。これは、平成 27 年の日本年金機構に対する不正アクセスに端を発した政府全体のセキュリティ対策を踏まえたもので、特に、個人情報等機密情報を扱う校務系について、ネットワーク上でのデータの閲覧や受け渡しを制限し、データの流出・漏洩を防いでおりました。</p> <p>しかしながら、ネットワークを分離することで、教職員の端末は、</p>

校務系、学習系、それぞれ別で2台の端末を調達する必要があったため、教職員数より多い台数の端末を整備していました。しかしながら、コスト等の観点から教職員の業務内容に応じて端末を共有するなどの状況であったため、実際には教職員全員に2台の端末が行き渡ってはおらず、追加要望の声が多くありました。

他方、GIGA スクール構想による児童生徒の1人1台端末の整備により沢山の学習データが生成されていますが、ネットワークが分離されていることで、学習系端末で生成したデータを成績付けなど校務系端末で行う業務で使用するためには、新たにデータを打ち込んだりしなければならず円滑なデータ利用が困難な状況でした。加えて、感染症対策や働き方や活用の柔軟性に対応するため、自宅への持ち帰りや課外授業等、利用場所を選ばない環境構築も必要な状況でした。特に校務系端末は、有線でのネットワーク接続としており、職員室のみでしか使用できない状態でした。

これらの課題を解決し、システムの効率化や柔軟な働き方等を実現するためには、ネットワークを分離せず一台の端末で業務が完結できるようにする必要があり、そのためには新たなセキュリティ対策が必要となります。

そこで注目されたのが、ゼロトラストの考え方に基づくセキュリティ対策です。ゼロトラストとは「全てのアクセスを信頼せず、必ず確認せよ」という考え方で、外部は当然のこと内部のアクセスであっても信頼しないという前提に立ってセキュリティを施すものです。

ゼロトラストの考え方が必要となった背景には、

- ・サイバー攻撃の高度化や内部不正などのセキュリティ脅威の増加
- ・新型コロナウイルス感染症の流行により加速したリモートワークの普及
- ・サーバやソフトウェア等を自社の管理施設内で管理・運用する状

態から外部管理・運用型のクラウドサービスへの利用拡大により、どこまでが内部のネットワークかという境界があいまいになってきたこと

などが挙げられます。

このように、今後も業務を安全かつ効率的に実施していくためにはこの考え方に基づくセキュリティが必要不可欠となります。

本市では、昨年度の教職員端末の入替のタイミングに合わせ、ゼロトラストの考え方を基にセキュリティ対策を以下の5つの観点で実施し、強化しました。

1つ目は、ウィルス検出や対応、遠隔での統制や監視を行う「端末の安全性」

2つ目は、ウィルス等の不正プログラムのブロックや業務に関係のないサイトへのアクセス制限を行う「通信の安全性」

3つ目は、クラウドサービス利用におけるアクセス権限の制御、使用の監視を行う「クラウドサービスの安全性」

4つ目は、データの監視や保護、暗号化を行う「データの安全性」

5つ目は、IDやパスワードだけでなく顔認証を施した多要素認証の導入や業務内容に応じたアクセス制御を行う「利用者の安全性」

です。

これらのセキュリティを施して更新したことにより、教職員に配布した端末にて学習系の端末と個人情報扱う校務系の業務を安全に取り扱える状態での端末の一元化が実現しました。また、校務系業務を含めて職員室外でも使用できるようになりました。

先生方からは、「校務系、学習系の各データを1台で閲覧、処理できるようになり、業務の効率性が上がった。」などの声もいただき、システムの効率化や柔軟な働き方に寄与するとともに、端末の調達台

	<p>数を削減しつつも教職員全員に行き渡らせることができました。</p> <p>引き続き、今年度は、更新時期を迎えた校務支援システムのクラウド化を行う予定であり、更なるシステムの効率化を図ってまいります。</p>
教育長	<p>何か御質問等がありましたら伺います。</p>
委員	<p>企業では端末を一元化するというのは当たり前の話なので、率直に学校は端末を一元化するまでのスピードがゆっくりだなと感じました。しかしこのように様々な取り組みをやられているということ、大いに心強く思っています。</p> <p>今度は、それを利用する先生方がどのように上手く時間を使って、働き方改革に繋げるかが重要になると思います。先生は端末を家に持って帰ると、のべつまくなしに見てしまう方が多いのではないのでしょうか。当然ご指導いただいていると思いますが、使い方、運用の仕方などを指導担当の方で考えいただくとすごくいいのかなと思います。</p> <p>また、端末はどのくらいの期間利用できるのですか。</p>
事務局	<p>基本的に、5年で更新する想定になっております。それぐらいになりますとバッテリーが消耗してきたり、使用するソフトの処理が遅れてしまったり等の不具合が発生してきます。</p>
委員	<p>万が一、途中で故障してしまった場合のケアはどうなるのですか。</p>
事務局	<p>端末の運用に当たっては、保守に入っておりますので、その範囲での修理となります。修理の期間は先生の業務が止まってしまうため、代替の端末を使用させていただく形を取っております。基本的には大人が使うということであまり故障の想定はしておりませんが、個体差はございますのでそういった体制を取っております。</p>
教育長	<p>このネットワークには校務系と学習系、更に会計の3つがあります。ですから戸田市の場合は2台だけれど、多くの自治体は3台の端末を使い分けているという実態があり、ゼロトラストの考え方で一元化さ</p>

	<p>れている自治体は全国でも数えるくらいしかありません。</p> <p>県内でも私の知る範囲で、端末の一元化ができているのは本市を含めて数えるくらいしかないのではないかなと思っていて、これから一元化というのは全国の教育委員会の喫緊の課題です。御指摘があったように、メリットの1つは教員の働き方改革であり、もう1つデータの利活用です。</p> <p>様々なデータを集められても今までは校務系の端末と紐づけることが難しく、全国的にはUSBでデータを移さねばならず、そのUSBを紛失してしまう事故もありました。様々な危険性があるために、今まで一元化が進んでいなかったことを踏まえると、そこに風穴を開けるすごく画期的な取り組みになると思います。今までのスタンドアロンのネットワークではなく、今はクラウドによる管理が当たり前になっており、端末が故障してもアカウントさえあれば支障なく業務ができる便利な時代になってきたと思います。</p> <p>そういう意味でも、このゼロトラストというのは様々なメリットがあるため、一刻も早く、国レベルで進んでいくといいと思いますが、全国的にはやっと動き始めたという感じがしています。</p>
<p>委員</p>	<p>ゼロトラスト対策で一元化されたというのは、すごく貴重なことだと思います。今後、教師は一人一人が端末を家に持ち帰りできることになるとは思います。その許可は誰がどのように出すのですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>セキュリティポリシーと運用手順において、教職員が端末を持ち帰る場合には、校長の許可によって持ち帰りをしているという状況になっております。</p> <p>ゼロトラストの考えに基づいてセキュリティを強化したことにより、万が一、パソコンを落としてしまった、どこかに置き忘れてしまったということがあっても、5つの要素でのセキュリティを施しておりますので他人がアクセスできない状況にしております。</p>

委員	校務系のネットワークについて、昔は有線だったということですが、共有のデスクトップパソコンは、まだ学校に残っているのですか。
事務局	今回更新するまでは、校務系のパソコンは職員室で有線接続しないと使えないものでした。そこを今回よりゼロトラストのセキュリティで、個人情報を扱う業務であっても無線で利用できるようにしたので、先生が使っていた校務用のノートパソコンは順次回収となります。
委員	ありがとうございました。
教育長	先生方が家にパソコンを持ち出すことで、セキュリティ上の問題だけではなく、勤務場所を離れて際限なく業務ができてしまうという問題があります。それを容認していくと、仕事と私生活の区別がつかなくなる恐れもあるため、このコントロールを校長がどこまでしていくかということが、今後の難しい課題だと思います。
委員	子供が帰った後に校務を一生懸命やられているということで、改めて本当に教師は大変な職業だと思いました。その中で、端末が1台になることで業務の効率化がはかれることはすごくいいことだと思いますが、すでに皆さんがおっしゃったように、家に持ち帰ることでずっと仕事してしまう人がいると思います。余計に仕事量が増えないように、対策をしていく必要があると思いました。
教育長	貴重な御意見ですので、ぜひ校長会などでも伝えていきたいと思えます。ありがとうございました。
教育長	続きまして、長道委員から御提案のありました「教育委員提案②教員研修の高度化について」を事務局より説明願います。
説明員	長道委員から御提案のありました教員研修の高度化について説明いたします。 8 ページを御覧ください。まず、前提の確認になりますが、教員研修の高度化が求められるのは、令和4年に法が改正されたことを受け、

令和 5 年 4 月から研修の記録とその記録に基づく対話と奨励を行う「新たな研修制度」が開始したことに依ります。各自治体には、地域の実情や教員育成の指標等に合わせた研修を合理的、効果的に取り組むことが求められています。

今回、戸田市は、文科省のモデル事業として採択され、取組を進めました。これは、教育委員会と大学等の多様な主体の協働による研修モデルを開発し、その成果を広く普及することで、全国的な研修観の転換・定着を図ることを目的としているものです。今、盛んに言われている「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現することは、児童生徒の学びのみならず、教師の学びにも求められている命題となっています。そこで、戸田市では、委託の要項にある研究のテーマのうち、「教員研修や授業研究等の高度化に関すること」について、受託をし、「戸田市 SEEP プロジェクト」を支える教員研修のアップデートをねらい、全体として「各教科等」と「教科等横断、PBL」などの学びを行き来する仕組み作りや校内研修の充実・高度化を設計しました。キーワードは「子供の学びと教師の学びは相似形」です。

前置きが長くなりましたが、9 ページが本市の研修の構造です。上に行けば行くほど組織的に行うもの、下はより個人に依存します。右に行けば行くほど年次が上がり、職階や職責によっても研修内容が変わってくることを示します。本市は、事業を行う以前より他自治体と比べて、充実したメニューがあることと、産官学の連携により外部の力を活用したものになっている状況にありました。反面、個別最適な研修であるかどうかは明確ではなく、教師のニーズへのサポートが十分でないことや、学校が「やりたい」と感じる研修を実施するに当たっては金銭的・物的サポートが不十分な状況でした。

そこで、柱を「主に個別最適な研修」と「主に協働的な研修」として、市教委の研修を見直したり、モデル校での研修を支援したりすることとしました。

11 ページは、市教委の教科教育についてのプランになります。授業づくりの視点と各教科固有の「見方・考え方」を働かせる視点の双方を強化することに重きを置きました。概要としては、12 ページ、「主に個別最適な研修」では、国士舘大学の細越教授に体育・保健体育を、埼玉大学の二宮教授に算数・数学を御指導いただくなど、授業前のプランニングから当日の授業、授業後のフィードバックまでを伴走形で支援いただきました。また、センター研究員が先進地を視察したり、希望のセミナーに参加できるようにしたりするなど、教師がそれぞれのニーズに合わせて各教科等に特化した研修を受けられるようにしました。また、「主に協働的な研修」としてモデル校4校の校内研修において、教育関連企業やコンサル会社、大学と連携するなどし、さらに、教師が協働的に学べる環境整備も行いました。

14 ページ、具体として1つ目に御説明するのが、「夏季教職員研修」です。これまでも各分掌に基づいた教科教育の研修は実施していましたが、今回、個々のニーズに沿えるよう、かつ、教科の「見方・考え方」に浸る研修を通して、視点を磨く研修を行いました。

15 ページ、事後アンケートからは、教科等の見方・考え方を踏まえた主体的・対話的で深い学びについて具体的なイメージをもつことができたという感想が多くあり、研修に対しての満足感やニーズへの合致、実践意欲のほか教科の「見方・考え方」の理解を深められたかということについて90%以上の教師が「とてもそう思う」「そう思う」と回答しています。他方、課題としては、参加者同士の情報交換や、具体的な事例をもっと知りたかったという感想があった他、全体的に中学校の回答結果が振るわなかった点が挙げられます。中学校では自身の教科がない場合、道徳や特活を選択しており、それも原因の1つだったかと考えています。令和6年度については、昨年度実施のない教科、例えば、生活、音楽、図画工作などの実施や学校種別の研修を検討してまいります。

16 ページは先ほど触れた、一流の大学教授による、伴走形の教科教

育に係る支援です。17 ページ、事後アンケートでは、受講者全員が、研修に対して満足感や実践意欲をもつことができ、教科の「見方・考え方」については全員が「とてもそう思う」と回答しています。教科の学びについて、実践を踏まえて見つめることができたものと考察しています。課題としては、ある程度の経験があつてこそ、見つめ抜いたり深めたりするものかと思しますので、年次によっては「難易度が高い」と感じていたことです。また、中学校からの参加希望が0であったことから、学校種問わず参加しやすくする工夫が必要であると考えております。

18 ページはセンター研究員を支援する取組です。有識者に入っていたき研究を深める取組や、先進地視察を行いました。関東だけでなく、大阪や上越教育大学などにも足を運んでよい授業を見、先方で話を聞き、見識を深めました。

19 ページはその評価です。先ほどの夏季研修ほどではないにしても、受講者全員が研修に対して満足感や実践意欲を持つことができていると見えます。

20 ページからは、モデル校における校内研修についてとなります。モデル校は4校あり、1つめが美谷本小です。コンセプトは「多様な産官学との連携による協働的な研修」です。大学や民間企業から講師を招き、教職員にとって協働的な研修を実施しました。その中でも児童の様子を把握する「QU アンケート」の分析の仕方や児童への関わり方について、開発者である大学教授から直接指導を受けています。この効果あつてか、年度内に満足と感じる児童が増え、不満足や要支援にあたる児童が減っています。

2つめは喜沢小です。コンセプトは、「『産官学による伴走支援』と『対話型研修』スタイルの導入」です。ポジティブな行動支援と個別最適な学び、個別最適な支援を掛け合わせ、データをもとにしたミーティングや評価、訪問支援による授業観察とフィードバックを専門家にさせていただきました。民間企業に教師のコーチングやファシリテー

ター力の向上に関わっていただいたり、広島県や大阪、長野に先進地視察に行ったりしています。さらに、全教職員で「対話の森」へ参加したり、対話型研修へのデータ活用方法の助言を受けたりしています。なお、喜沢小では、長時間の集合型研修から、自由度が高く、短時間・少人数での機動的な非集合型の新しい研修システムの構築及び職員室の環境整備にも取り組みました。タッチパネル式ディスプレイや可動式の机・椅子、大型ホワイトボード等を導入し、流動的な対話を可能にする「コラボレーションルーム」の整備、対話的・協働的に効果検証を行い、改善サイクルを回していく研修会の実施にも挑戦しています。

23 ページ、3 つめは戸田中です。コンセプトは「3つのアプローチによる同一歩調の研修の見直し」まさに、一斉型ではない、非同期の学びです。ポジティブな行動分析と働きかけのPBS研修、専門企業の支援によるPBL研修、「主体的・対話的で深い学びを促すための授業改善」をテーマに教科横断チームを編成し、福井大学の支援を受け研修を行いました。

最後は、笹目中です。コンセプトは「教師のマインドセットづくりに向けた研修推進コンサルの導入」です。笹目中は、コンサル会社である「フランクリン・コヴィー・エデュケーション・ジャパン」の伴走により、例えば、会議運営についての客観的なフィードバックを通して、目的設定から参加者の事前準備等の見直しを行い、会議の効率化と効果の最大化に向けた改善に取り組みました。

25 ページからはモデル校の成果と課題です。棒グラフは、青が一回目、赤が二回目です。教師の満足につながる理由としては、目の前の子供の指導・支援に直結する研修内容を扱っていること、すぐに実践に生かせること、多様な外部指導者の招聘が多く挙げられていました。また、実践意欲についても同様の理由が挙げられており、日々の実践に対する伴走支援や、それに直結する指導者との対話が効果的であったと考えられます。また、多様な研修内容が自身のニーズにつな

がったと回答する教師も多くみられました。研修開始前には、自身の研修ニーズがそもそも何なのかを発見できていなかった教師もおりましたが、校内研修において幅広い内容を扱うことが、ニーズを見付ける上で効果的であったことも示しています。学んだことの実践化については学校種で差があり、中学校における伸びが少ない傾向にありました。否定的な回答をした者の理由としては、「研修の意図がわからない」「校務、部活動で時間がない」などが挙げられており、働き方改革とともに研修観や研修の在り方についても改善が必要であると捉えています。

26 ページ、協働的な学びについては、物的環境整備により、協働の機会が増え、伴って意見の発信や同僚性を実感している先生が多いことが分かりました。同僚の話を聞くことで、満足感を感じると回答した教師も多く、インプット中心ではなく、アウトプット中心の対話型研修は、協働的な学びにおいて効果的であると考えられます。また、外部講師についてもインプットのための招聘よりも、日々の実践に係る助言者・支援者としての招聘が満足感や実践意欲にもつながることが分かりました。

最後に 27 ページ、総括です。効果検証の結果を見ると、すべての項目において、おおむね目標値である 95%を達成しています。特に、教師が自身の意思をもって参加した任意研修ではすべての項目が 100%であり、個別最適な学びを考える上で重要な示唆と捉えています。多様な教育課題への対応が求められる現在において、教科等の見方・考え方を深める研修は、ニーズがあり、本事業で実施したような教師の選択による研修や外部指導者による伴走指導、先進地の視察等は今後も実施していくべきであると考えています。

本事業における研修の内容は、焦点化された予定調和の内容ではなく、広く多様な内容を扱ったことで、効果検証では肯定的な回答が得られました。学校現場の課題が多様化する中、従前の校内研修のように焦点化された内容「だけ」を追究すること自体がむしろ研修への不

	<p>満につながっていたことも考察されます。学校や教師に伴走して支援をしたり、助言をしたりするような関わり方が効果的でした。</p> <p>他方、学校のニーズに応じた外部人材をいかに確保していくか、という点は基礎自治体では限界もあることから、国・県・大学等が作成するメニューにも期待したいと考えております。</p>
教 育 長	何か御質問等がありましたら伺います。
委 員	<p>教員研修や授業研究等の高度化というのは非常に難しいですが、戸田の場合、かなり深く細かくやっておられ充実している印象を受けました。中堅教諭や管理職を目指す人の研修以外にも、若手の先生を8年くらい経験のある方が見るような研修や学校の組織があれば、学校がいきいきすると思いました。</p> <p>また、15 ページに中学校の先生が各教員研修について、あまりいいと思わないという意見が 12 パーセントと多く、その人達の具体的な感想をお聞きしたいです。</p>
事 務 局	<p>まず若手の先生、あるいは中堅の先生方への研修については、資料の 9、10 ページあたりを見ていただきますと、初任者研修から進んで中堅教諭等資質向上研修の前あたりの先生方への支援ということが重要になってくると思います。市の研修の中でも、伴走型の支援や夏季専門研修のあたりでフォローをしているということ、それから市では独自に学校経営アドバイザーを任用して、随時 1on1 で先生方の悩みを聞き指導にあたっておりますので、そのあたりが効果的に絡んでくるといいと思っております。</p> <p>また、2 点目の中学校の先生方の感想について、今回は教科の研修ということで全員どこかの研修を選んで参加をする御案内させていただきましたのですが、御自身の専門教科が研修にない先生がおられました。その先生方から道徳や生活ではなく自分の教科の研修をやりたかったという感想がございました。どういった研修が望ましいのかという点については、自分の教科を大切にされている先生方のニーズに応</p>

	えられるよう、伴走型の支援が最も適しているのではないかなと考えております。
委員	研修のアップデートという言葉をお使いになっていますが、アップデートという言葉にどういうイメージを持って研修をなさっているのかを教えてくださいたいです。
事務局	研修という意味では、先生方にとって個別最適で協働的な研修が行われるということが研修のアップデートだと思っています。先生方にとってのアップデートという意味では、研修を受けたことによって先生方が教科の見方、考え方を深められる、あるいは、子供たちの様子や反応によって対応が変えられる、魅力的なことを振れるような教師、子供が言った言葉をキャッチして、レスポンスできる教師になることだと思っています。
委員	わかりました。ときどき、進化やアップデートをしすぎると周りの声が聞こえなくなってしまうことがあるので、進化によるマイナスの面も意識して研修に取り組んでいただければと思います。
委員	昨年度の初めのころの学校訪問で、やはり先生同士で差があるなど感じ、教員研修について提案させていただいたかと思います。それで昨年度の終わりのころに学校訪問したときは、かなり差が減って ICT をうまく活用されている先生が多く見られ、研修がどんどん進んでいるのだなと感じたところです。やはり脱自前主義として、多くの外部機関と連携し、その道のプロの人が教えるとおもしろさが違うのではないのでしょうか。学びたいという意欲が湧くような研修をしてくれると思うので、モデル校 4 校だけでなく、他の戸田市内の小学校、中学校へと、学校間での格差が出ないように研修を進めていただければと思いました。
教育長	先ほど、お話に出たニーズに応じた研修について、教師一人一人で学びたい、アップデートしたいという対象が違うので、それぞれの学びたい心にどのように火を着けていくかということは非常に難しい

	<p>課題です。小学校と中学校、経験年数によっても違いますし、どのようにそこに応じていくのかというのは、まさに教育委員会の力が求められてくると思っています。最近、教師そのものが高度専門職と言われていますが、高度という言葉の意味は、どんどん専門性が深くなるという場合もあるし、理論と実践の往還で、いかにして子供を見抜く力をつけていくかという考え方もあります。教科等の専門性を深めていくということと実践力とを両方やらなくてはいけないということです。やればやるほど課題が見えてくるため難しいところですが、いずれにしても、教師は、学び続けるもののみ教える資格があるということはいつの時代も変わらないので、そこに応じた研修をこれからも提供していきたいと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>それでは以上を持ちまして教育委員提案を終了いたします。</p> <p>続きまして、「報告事項」について申し上げます。本日は「その他」を含めまして11件の報告がございます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 令和5年度入学準備金貸付内訳について ② 令和6年度第1回奨学資金貸付内訳（新規分）について ③ 戸田市立小学校卒業児童の私立中学校等への進学者数について ④ 令和6年度児童生徒数及び学級数について ⑤ 令和6年度 指導の重点・主な施策について ⑥ 令和5年度 戸田市教育研究集録について ⑦ 令和6年度 学校公開日等一覧 ⑧ 令和6年度 南部教育事務所教育支援担当・学力向上推進担当学校訪問の予定について ⑨ 令和6年度戸田市民大学講座実施計画（生涯学習担当分）及び青山学院大学・戸田市連携講座について ⑩ 戸田市立図書館(中央図書館)における成果連動型民間委託契約(PFS)の導入検討について【秘密会】 ⑪ その他

	<p>資料 No.2 に基づいて、秘密会以外の詳細につきまして、各所属長より報告いたします。なお、御質問につきましては、すべての報告が終了したのちに伺います。</p>
事務局	<p>報告事項① 令和5年度入学準備金貸付内訳について報告させていただきます。</p> <p>入学準備金貸付につきましては、昨年度の10月から2月末まで募集を行ったところ、31人の申請がありました。これを受け、入学準備金受給者選考委員会にて選考した結果、31人全員の貸付が決定され、辞退者1人を除く30人に貸付を行いました。</p>
事務局	<p>報告事項② 令和6年度第1回奨学資金貸付内訳（新規分）について報告させていただきます。</p> <p>奨学資金貸付につきましては、年に2回、3月と9月にそれぞれ4月からの奨学生・10月からの奨学生を募集しております。今回、令和6年度第1回として3月に募集を行ったところ、16人の申請があり全員の貸付が決定いたしました。</p> <p>なお、奨学資金は4月からの貸付となります。</p>
事務局	<p>報告事項③ 戸田市立小学校卒業児童の私立中学校等への進学者数について報告させていただきます。</p> <p>令和6年度の私立中学校等への進学は、119名でした。</p> <p>昨年度と人数で比較すると10名増えていますが、近年の割合を見ると、昨年度が低く7%台だったところ、本年度の約9%というのは、例年並みであると言えます。</p>
事務局	<p>報告事項④ 令和6年度児童生徒数及び学級数について報告させていただきます。</p> <p>小学校の児童数については、前年度同時期比160名減の7,887名、中学校生徒数については、前年度同時期比44名減の3,690名となります。また、小学校の学級数については、前年度同時期比2学級減の</p>

	<p>282 学級、中学校の学級数については、前年度同時期比 2 学級増の 118 学級となります。</p> <p>なお、令和 6 年度の 1 学級あたりの定数は国の基準で、小学校 1 年生から 5 年生まで 35 人、小学校 6 年生以上は従前どおり 40 人となっており、小学校 5 年生について変更されております。</p>
事務局	<p>報告事項⑤ 令和 6 年度 指導の重点・主な施策について報告させていただきます。</p> <p>「指導の重点・主な施策」の令和 6 年度版のコンセプトは「再確認 Reconfirmation (リコンファーマイション) です。先生方が授業づくりや指導で悩んだ際の拠り所となれるものとするなど意識して作成しました。特に、以前からある 3 ページのアクティブ・ラーニング指導用ルーブリックを活用した授業改善に加え、4 ページのグットプラクティスから見える授業改善のポイントや 5・6・7 ページの学級経営を振り返るためのレンズとしての「学級経営リフレクション」が大きな目玉です。リーディング・スキルや RTI についてもこれまでの取組を元に、再確認できる内容にしてあります。また 10 ページのデジタルシチズンシップや SAMR モデル、12 ページの PBL についても参照し、各学校において、先生方の日々の授業づくりや学級経営において活用いただける内容となっております。なお、この「指導の重点・主な施策」については、学校訪問や校内研修、様々な研修会における指導主事の指導の際にも活用してまいります。</p>
事務局	<p>報告事項⑥ 令和 5 年度 戸田市教育研究集録について報告させていただきます。</p> <p>別冊の水色の冊子を御覧ください。表紙は、昨年度の教育フェスティバルで御講演いただきました Google for Education の日本統括 小出様の御講演内容、2・3 ページは中室先生の寄稿で幼児教育の効果に関する研究で、幼児期の関わり方によるプラスとマイナスの影響など、非常に興味深い内容となっております。4、5 ページは、リーディング・スキルに関する研究の経過について、テスト結果と埼玉県学調</p>

	<p>の相関分析を掲載しています。6 ページがわかる調査の分析、7 ページがぱれっとルームの効果検証に係る「ぱれっとラボ」の分析です。ぱれっとルームによって児童の自主性につながったという考察や、教職員がぱれっとルームに関わることで、達成感を維持する役割を果たす可能性が見られていることに言及しています。その他、教育センターの教科等研究グループの研究報告と最終頁はシンクタンクアドバイザーの田中先生や文科省の伊藤課長の特別寄稿となっており、充実した内容となっております。お時間のあるときに、お目通しいただければ幸いです。</p>
事務局	<p>報告事項⑦ 令和6年度 学校公開日等一覧について報告させていただきます。</p> <p>各小・中学校の学校公開日や運動会・体育祭の実施予定日については、御覧のとおりです。コロナ5類への移行後は行事についても方法や内容をブラッシュアップしての実施となっております。児童生徒の活躍の場や体験の機会、開かれた学校づくりの一環としても多くの行事が実施できるよう、各学校を支援してまいります。</p>
事務局	<p>報告事項⑧ 令和6年度 南部教育事務所教育支援担当・学力向上推進担当学校訪問の予定について報告させていただきます。</p> <p>今年度の学校訪問は御覧のと通りの日程となっております。昨年度は開会行事に校長先生が行う学校概要説明のプレゼンも御覧いただくために、早めにお集まりいただいておりますが、今年度も同様をお願いいたします。また、今年度も、学校経営ルーブリックをもとにした学校へのフィードバックも行っております。委員の皆様には、おおむね学期ごとに担当からメールにより参加・不参加を確認させていただきますので、何卒よろしくをお願いいたします。</p>
事務局	<p>報告事項⑨ 令和6年度戸田市民大学講座実施計画（生涯学習担当分）及び青山学院大学・戸田市連携講座について報告させていただきます。</p> <p>はじめに、令和6年度の戸田市民大学講座については、関係部署や</p>

公共施設と連携し、約 60 講座の開催を予定しております。本日は、生涯学習担当にて企画運営する講座計画について、御説明いたします。

大学連携講座では、青山学院大学、埼玉大学の先生方をお招きし、最先端の研究成果を御講義いただきます。市内で大学の学びが体験できるので、例年、幅広い年代の参加があり、認知度も高まっているところ です。

人権教育指導者研修会では、人権課題をより身近に感じてもらうため、インターネットによる人権侵害や不登校など、現代的なテーマにもスポットを当てて実施いたします。

とだ学は、地域への理解を深め、郷土愛を醸成することを目的として開催している講座です。今年度は「ボートのまち戸田」の魅力を実感するきっかけづくりとして、戸田ボートコース等への訪問を予定しております。

市民企画講座は、学びたいと思う気持ち、講師となって教えたいという想いをカタチにというコンセプトで、市民から応募のあった企画を市民大学講座として実施いたします。

その他、金融リテラシーをテーマにした現代課題講座や著名な方を講師とする記念講演会等を実施いたします。

続きまして、青山学院大学・戸田市連携講座について御説明いたします。

資料 6 ページを御覧ください。

今年度の青山学院大学・戸田市連携講座は、5 月 18 日（土）から「教育現場の今」を全体のテーマとして、全 4 回で講座を開催いたします。各回のテーマは、「情報教育の最前線」、「子供の読書と学校図書館」、「子供の学びの多様性と学校現場～心理職の視点から～」、「人生 100 年時代と生涯学習」となっております。

	<p>今回も、会場受講のほか、オンデマンド配信（市公式 YouTube による映像視聴）も実施いたします。</p> <p>今回のテーマは、教育委員会の各種取組にも関連した内容となっていることから、市内小中学校や市内にある県立高校にも御案内しました。児童生徒のみなさまにも大学の学びを体感していただきたい、また先生方にも役立てていただければ幸いです。</p> <p>令和6年度も引き続き学びを通して成長や楽しさ・生きがいを感じ、活躍できる環境が整うよう、地域の中で学びに触れる機会をたくさんつくってまいります。</p>
教育長	次に⑩ その他ですが、事務局より何かございますか。
事務局	特になし。
教育長	以上で、「報告事項」が終わりました。何か御質問等がありましたら伺います。
教育長	<p>まず、①令和5年度入学準備金貸付内訳、それから②令和6年度第1回奨学資金貸付内訳（新規分）について、いかがでしょうか。</p> <p>昨年比についてはどうなのですか。</p>
事務局	<p>まず、入学準備金ですが、昨年度は申請が22名ございまして辞退者3名を除く19名に貸付を行いました。一方、奨学資金ですが、こちらの申請決定は、昨年度は12名となっており、全員に貸付を決定しております。</p>
教育長	では、続きまして③戸田市立小学校卒業児童の私立中学校等への進学者数について、いかがでしょうか。
委員	<p>今、私立学校と公立学校との競争が非常に激しくなっています。特に私立学校の授業料無償化や受験高倍率化という報告を受けていますが、今後の私立学校の需要が増えていく傾向は読み取れるのですか。</p>

事務局	平成 24 年, 25 年の本市の私立受験者は 10 パーセントを超えておりましたが、ここ数年はおおむね 9 パーセント台で推移しております。戸田市の中学校の取組が充実してきており、本市の私立受験者は減ってきています。今後も教育政策室と連携し、公立中学校へ進学する子供が一層増えていくと良いと思っております。
委員	ある意味では私立学校と公立学校で競争していい教育をやっているとってもらうのがベストですので、引き続き頑張ってもらえばと思います。
教育長	それでは、報告事項④令和 6 年度児童生徒数及び学級数について、いかがでしょうか。当初に比べて現実値が増えていないというのは少し予想外の部分です。
事務局	このところ続いている増築工事や改築工事の中で予想して設計を始めていますが、そのころより少し減ってきています。ただ一方で、特別支援学級は増えているので引き続き教室数は注視していかないといけないなという状況です。
教育長	では、続きまして⑤令和 6 年度 指導の重点・主な施策、それから⑥令和 5 年度 戸田市教育研究集録について、いかがでしょうか。
委員	主な施策と研究集録はどのように広報していくのですか。
事務局	広報としましては、まず先生方に使ってもらうことがメインとなりますので、先に先生方に研修の機会等で知らせていきます。外部に関してはホームページや Facebook 等で紹介をしていきます。
教育長	続きまして⑦番の学校公開日一覧についてはいかがでしょうか。1 つ気になったのが、新曽小学校の運動会で予備日なしということは天気が悪かったら実施しないということなのではないでしょうか。
事務局	はい。おっしゃる通りです。運動会自体が、体育の授業の延長で開催しているということなので、そうなります。

教育長	また、新曾小学校と新曾中学校は調整中と書いてありますが、場合によっては運動会をやらないかもしれないということですか。
事務局	やらないということではないです。新曾小学校に関しましては、現在、増築工事を進めていて校庭が少し狭くなっているところもありまして、その影響で調整中となっております。
委員	体育館で、ダンスフェスティバルというものをやるのですが、子供としては行事が簡素化し、寂しいかもしれません。
教育長	運動会や体育祭の規模は昔に比べるとかなり簡素化されているため、今後も教育委員の皆さんから様々な御意見をいただければと思います。
教育長	<p>続いて⑧令和6年度 南部教育事務所教育支援担当・学力向上推進担当学校訪問の予定についてはどうでしょうか。また今年も教育委員の皆さんにループリックに基づいたコメントをいただければと思います。よろしくをお願いします。</p> <p>続いて⑨令和6年度戸田市民大学講座実施計画（生涯学習担当分）及び青山学院大学・戸田市連携講座についてはいかがでしょうか。実施計画 No.7 の金融リテラシー講座について、例えば新NISA 等の投資や運用の仕方についての講座はやってくれないのかという声が、たまたま聞こえたのですが、実際、そういった声は多いのでしょうか。</p>
事務局	そうですね。人生100年時代というところで、大人の学びとしては資産活用というところに大変興味を持たれていますし、児童生徒においても金融の正しい理解が求められていますので今年度こちらをテーマにしていきたいと思います。
教育長	時代のニーズに合わせて色々な講座をやらせてもらっているというのは大変ありがたいとお声もいただいていますので、ぜひ引き続き充実した講座を開催していただいて、教育委員会の皆さんもお時間があつたらぜひ見ていただけたらと思います。

教 育 長	他にはいかがでしょうか
事 務 局	青山学院大学の連携講座については教育人間科学部に今回御協力いただけるということで、テーマの決め方においても青山学院大学の関係部署の方々に戸田市のニーズを拾っていただいていることを大変感謝しています。引き続き市民ニーズも伝えながら講座のテーマを決定してまいりたいと思います。
教 育 長	本当にお世辞ではなく感謝される場面がすごく増えていますよね。講座に欠かさず参加されている方も増えていますし、大いに進めてもらいたいと思います。 では⑩その他ということで事務局から何かございますか。
事 務 局	その他は特にございません。
教 育 長	それでは次に、次第の6 その他の「次回の教育委員会の日程（案）」について、事務局より説明願います。
事 務 局	次回、教育委員会定例会の日程ですが、5月16日（木）午後3時30分からの開催について、お伺いいたします。
教 育 長	次回の教育委員会定例会の日程は、事務局（案）のとおりでよろしいでしょうか。
各 委 員	了承
教 育 長	それでは、次回の教育委員会定例会の日程は、事務局（案）のとおり決定いたします。次にその他ですが、事務局から何かございますか。
事 務 局	特になし。
教 育 長	委員の皆様から次回以降の教育委員提案のテーマについて何かございますか。
委 員	感覚的な話になりますが、近年周りで幼少期から近視になる子が多いなと感じています。子供の友だちの多くがメガネをかけるよう

	<p>になっていてびっくりしたことがあります。学校の視力検査等による統計があると思いますので、年々どのように推移しているのか知りたいです。学校教育で1人1台端末を使うようになったことも一因だと思いますし、家庭の影響も大きいと考えます。その中でも学校で近視に対してどのような対策をしているのかを教えてくださいと思います。</p>
教育長	<p>では時期的なものは考えさせていただいて、学務課から報告をしたいと思います。</p>
委員	<p>本日はご報告いただいた令和6年度 指導の重点・主な施策について、内容を各学校に説明されていくということでしたが、今日の説明だと少しわかりにくいと思いました。用語の意味を含めて、再度わかりやすく説明していただきたいです。それから子供たちの学力はどうなっていくかという点で、埼玉県の学力調査で IRT、項目反応理論を実際にやっていって、子供たちにどう活かしているのかという点が気になりました。</p> <p>先ほどの研究の中にもリーディングスキルテストと影響度研究ということで細かい数字が出ていますが、子供たちの伸び率についても、もし分かれば、教えていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>これは教育政策室でお願いします。指導の重点については改めて提案ということで委員会の方で詳しく説明させていただきます。</p>
委員	<p>戸田市で1つ標榜している特別支援教育について、「特別でない特別支援教育」という言葉を使っていますが、特別支援の場合はやはりスペシャライズされた教育や公務もあると思います。子供たちや親御さんが、特別支援教育で学ばせたい、あるいはそこに入れたいという際に市としてどう判断をしていくか、様々な特別支援教育の在り方について戸田市としてどのように考えていくのかについて、これまでの経験や事例があれば教えていただければと思います。</p>
教育長	<p>まずは特別支援学級に入級する仕組みがどうなっているかということがですね。それから実際に特別支援学級に在籍した場合にどの</p>

	以上のとおり会議の経過及び結果を記し、相違ないことを証するため署名する。
	令和6年5月16日
	教 育 長
	教育長職務代理者
	委 員
	委 員
	委 員
	書 記